ikiiki-tsushin

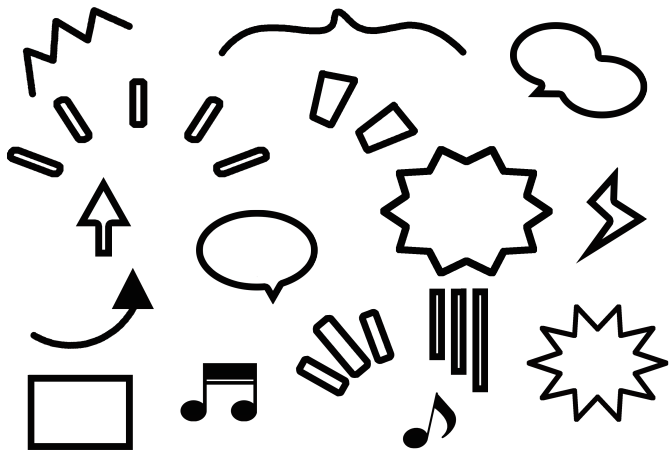
左京東部 いきいき通信

March.2023 Vol.16

交流活動 特集

## #01 交流が市民活動を元気に

当センターでは多様な活動が行われていますが、利用者どうしが新たに出会い、交流する機会はほとんどありませんでした。そこで「交流はそれぞれの活動を活性化する」という仮説のもと、昨年（2022 年）の 1 月に 3 回にわたって「理想的な交流」について意見を交わすワークショップをおこないました。当センターの利用者の皆さんや地元自治会の役員さん等と自由に考えをのべ合いました。出された意見をもとに、2022 年度から「交流を促進する事業」を始めました。その成果と展望についてレポートします。



### 交流事業のこれまでとこれから

| 2022 年 1 月 | 3 月 | 5 月 | 11 月 | 2023 年 2 月 | 3 月 | 5 月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 交流を育む ワークショップ | 春の文化祭 | 交流促進プレ事業 市民劇公演 | 秋の文化祭 | 聞き取り事業 展示企画 | 春の文化祭 | 交流促進事業 市民劇公演 |

### pick up! いきいき笑って 秋の文化祭

2022 年 11 月 19 日 ~23 日、シニア劇団、センター利用者らによる上演、パフォーマンスお披露目会が行われました。

#### Sōtalan[ 洪 ]↔塩足らん [ 日 ] ～伝統舞踊や音楽で味わうハンガリー語母語話者の文化～

タイトルの由来は、塩が足りないという意味のハンガリー語” Sōtalan” は “シオタラン” と発音するということから。
ハンガリーの塩にまつわる昔話から始まり、司会の堀川さんがホームステイで何度も過ごしたトランシルヴァニアの風景が紹介されます。地元の大会で入賞経験のある日本人ダンサーの舞踏や現地の伝統的な楽器の演奏を交えながら食文化や隣国ルーマニアとの関係にも触れていきます。最後にはアーティストの生演奏の中チャーンゴーの踊りを全員で踊りました。ハンガリー大使館の方もいらっしゃり、ハンガリー文化で持ちきりの 3 時間。

2022.11.23

2022.11.19-20

#### シニア劇団星組・50 歳からのハローシアター公演『きらきらひかるこの世の星よ』

老人ホーム『スターダスト』の面々を演じるのは劇団 “星組” と “50 歳からのハローシアター” のメンバー。どちらも 50 歳以上からのメンバーで構成されています。家族に半ば無理やり老人ホームに入居させられた 2 人の女性は、『スターダスト』の入居者たちと共に自身の老いを見つめていきます。年を重ねていくことは、何もできなくなってしまうことなのだろうか。死に方すら選ぶことができないのだろうか。人生 100 年時代の、老いの在り方を問うた物語。

### 音楽とダンスの夕べ

2022.11.21

上京区から。ピアノとのアンサンブルでジブリやディズニーなどの楽曲を演奏。二胡の暖かな音色がなじみ深いメロディーを奏でます。

2022.11.21

左京区から。ご家族でいきセンのピアノを利用する音楽一家。ショパン『ノクターン』、リスト『ラ・カンパネラ』と、格調高いクラシックを演奏。ドレス姿で、さながらリサイタルのようでした。

2022.11.21

今年で 14 年目を迎えた、大人のためのバレエ教室。コロナ禍で発表の機会を失っていた中で久しぶりの公演。『枕草子』の朗読から四季の移ろいを表現したバレエ、そして歌手デビューをされた特別ゲストによる歌唱など、優雅な時間が流れました。

文：近江就成　撮影：長谷川槙也

## pick up! いきいき笑って 春の文化祭

2022 年 3 月 21 日、東部いきセンにて利用者同士の交流を目的として初の試みである「春の文化祭」が開催されました。窓に防音壁を敷き詰め客席を用意し、集会室が立派なステージになりました。Web 配信もされ、10 組の利用者が日々の活動の成果を披露し、利用者同士だけでなく観客との間でも交流を深めました。

中川ユウジ

インド現地でも活躍される中川さんは民族楽器サーランギーを同じくインドの打楽器タブラと共に演奏してくれました。

UGATU

日本発の前衛的な舞踊である“舞踏”を披露してくれました。舞踏を見慣れない観客も、その静と動のイメージから舞踏とは何か伝わっているようでした。

京都でのんびり踊りの場

京都大学民族舞踊研究会の OGOB を中心に集まったクラブで、個性豊かな民族衣装を着て津々浦々の民族舞踊を披露。最後には客席を巻き込み全員でフォークダンスを踊りました。

マホッピダ

マホロバシスターズとハッピーソーダがコラボしたマホッピダとしてフォークソングを披露してくれました。客席にコール＆レスポンスを求めながら明るく楽しく「左京愛」を歌いました。

鵜飼大介

カーペンターズのトリビュートバンド“Velvet of Green”としても活動している鵜飼さんは幼い頃から学んでいるピアノで、ビートルズやカーペンターズの曲を披露してくれました。

折り面シアター

中世イタリアの即興大道仮面劇を参考に、動物に扮した人物が弾き語りと共に「うさぎとかめ」を演じ子どもたちの笑いを誘っていました。

和田史子

ホーメイ歌手である和田さんはトゥバ音楽を披露してくれました。ロシア連邦、南シベリアに位置するトゥバ共和国の喉歌ホーメイと民族楽器イギル、ドシュプルールで音楽を奏でてくれました。

カポエィラ・アンゴーラインジンガ京都

アフロ・ブラジル文化カポエィラを披露してくれました。子どもがカポエィラを行う様子を大人たちが囲んで、見守るように楽器を演奏している様子が印象的でした。

パパイ・エステル

ハンガリー・ブタペスト出身のパパイさんはユーモアを交えながらのクイズでハンガリーの文化紹介をしてくれました。

文：近江就成　撮影：長谷川槙也

トランジスタボレロ

左京区で活動するフォークソングユニット。歌詞に京都の地名を織り交ぜながら、左京の地域に住むアーティストとして生活の実感と思いを味わい深く歌い上げました。

## #02 コラム『対面での交流』

センター長　杉山準

コロナ禍で「リモート会議」なるものがとても一般化しました。互いに出向く手間が省けたり、遠く離れた人とも気軽に打ち合わせできたりとたいへん便利です。スマートフォンやインターネット通信、SNS によってまさにいつでもどこでも誰とでもコミュニケーションが取れる時代となりました。コロナ禍はそれを加速させたことでしょう。

さて一方で、人間の肉体や脳はそうした急激な技術や環境の変化についていけていないという指摘があります。ある調査によると、そうした最新ツールを使いこなす若い世代で、孤独を感じる人は増えているとのことです。スウェーデンの精神科医アンデシュ・ハンセンの著書『スマホ脳』は、特に若者において他人の考えや気持ちを理解する「共感力」が落ちていると指摘しています。他人を理解したいという衝動はもともと人に備わっているが、幼少から親兄弟や友人と「対面で」やりとりすることで徐々に他人の心境や考えや意図をうまく認識できるようになるとのことです。それは脳の中のミラーニューロンという細胞が作用するが、これを最大限に活性化するには人と直接会う必要があるのだそうです。調査によると映像やモニター越しではその効果は薄く、演劇と映画では演劇の方が効果的という事です。対面でこそ交流も深まるのはどうやら本当の事のようです。

**左京東部いきいき市民活動センター**

〒606-8432 京都府京都市左京区鹿ケ谷高岸町 3-2
TEL：075-761-1385　FAX：075-752-3350
MAIL：info@se-ikiiki.com　URL：http://gekken.net/SE_IKIIKI/
開館時間：10 時～21 時（日曜日は 17 時まで）　休館日：火曜日・年末年始（12/29 ～ 1/4）
アクセス：京都市営地下鉄　蹴上駅より徒歩 15 分　バス停「東天王町」より徒歩 5 分
※駐車場はございませんので、公共交通機関もしくは最寄りのコインパーキングをご利用ください。



発行：左京東部いきいき市民活動センター　　発行日：令和 5 年 3 月 31 日
編集：沢大洋